

## 第1回“ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会”議事要旨

---

**【開催日時】**

平成19年12月19日(木)14:00~16:00

**【開催場所】**

灰塚コミュニティセンター

**【出席者】**

敬称略

|        |              |                         |         |
|--------|--------------|-------------------------|---------|
| 委員長    | 中越 信和        | 広島大学国際環境協力プロジェクト研究センター長 | 教授      |
| 委員     | 立石 雅哉        | 仁賀振興会                   | 会長      |
| 委員     | 多留 正弘        | 安田自治振興会                 | 会長      |
| 委員(代理) | 今井 秀明(伊藤 忠則) | のぞみが丘運営協議会              | 会長(副会長) |
| 委員     | 和田 芳治        | 木屋地区自治振興区               | 区長      |
| 委員     | 山根 京司        | 稲草西自治振興区                | 区長      |
| 委員     | 前川 俊清        | 県立広島大学 生命環境学部           | 准教授     |
| 委員     | 金沢 成三        | 比婆科学教育振興会               | 会長      |
| 委員     | 岩水 正志        | 灰塚ダム知和ウェットランド フレントリ館    | 館長      |
| 委員     | 熊原 保         | 社会福祉法人総領福祉会             | 理事長     |
| 委員     | 湧田 法恵        | 三次市 三良坂支所               | 支所長     |
| 委員     | 久保田隆義        | 三次市 吉舎支所                | 支所長     |
| 委員     | 永田 修治        | 庄原市 総領支所                | 支所長     |
| 委員     | 島田 淳次        | 国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所 | 所長      |

**【議事次第】**

- 1．開会
- 2．開会あいさつ
- 3．自己紹介
- 4．議事
  - (1)ハイヅカ湖地域ビジョンの進め方について
  - (2)委員会の名称について
  - (3)委員会趣意書について
  - (4)分科会のテーマ及び人材等について
  - (5)その他
- 5．閉会あいさつ
- 6．閉会

**【説明資料】**

- 資料-1 第1回 灰塚ダム水源地域ビジョン推進委員会（仮称） 次第
- 資料-2 灰塚ダム水源地域ビジョンの進め方
- 資料-3 灰塚ダム水源地域ビジョン準備会 開催結果概要
- 資料-4 灰塚ダム水源地域ビジョン推進委員会（仮称）の名称について
- 資料-5 灰塚ダム水源地域ビジョン趣意書（提案）
- 資料-6\_1 灰塚ダム水源地域ビジョン分科会（仮称）のテーマについて
- 資料-6\_2 分科会へ入っていただきたい人材（案）
- 資料-6\_3 分科会テーマ区分イメージ
- 資料-7 情報発信分科会（仮称）の開催について

## 【議事要旨】

### (1) 灰塚ダム水源地域ビジョンの進め方について

- ・委員長は中越信和委員に決定。
- ・委員会ではビジョンの基本方針やメニューづくりの方向性に関する承認やアドバイス等を行い、テーマに応じた複数の分科会にて具体的な活動メニューを作成・実行することを確認。

### (2) 委員会の名称について

- ・委員会名は「ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会」に決定。

### (3) 委員会趣意書について

- ・この地域は中山間地域再生のモデルとなりうる様々な潜在能力をもっている。趣意書にも「地域再生のモデルをめざす」または「全国に先駆け」旨の文言を加える。
- ・事務局にて修正文を作成する。

### (4) 分科会のテーマ及び人材について

まずは下記6点のテーマに応じた仮の分科会を立ち上げ、各分科会が目指す方向や実行メニューの検討・議論等を重ね、カテゴリーを柔軟に再編しながら進めていくことを決定。

豊かな暮らし分科会

(生き活きとした豊かな暮らし・趣味の共有ネットワークなど)

自然との共生分科会

地域活性化分科会(兼業農業、特産品など)

文化・芸術分科会(食・芸術・歴史など)

健康・福祉分科会(ハイツカ湖周辺施設等を利用した健康増進・福祉・スポーツ等)

ウェットランドと環境教育分科会

それぞれの分科会に人材・後継者育成及び情報発信の機能をもたせる。

- ・全体的な情報発信については、事務局から行う。
- ・各分科会メンバーについては1月上旬頃までに随時事務局へ推薦。

### (5) その他

- ・1月中に一度、各分科会の開催を目指す。
- ・今後の分科会開催等については後日、事務局から各委員等へ連絡する。

#### 【委員の皆様より頂いた意見】

- ・地域一体となって水源地域ビジョンの策定、推進に積極的に参画しようと考えている。
- ・ダム下流地域と上流地域の交流をより深めていくことが大切である。
- ・今後は、人と自然との共生する里山環境がキーワードになる時代である。その先進地が西日本であり、中国山地であり、当該地域であると考え。地域再生のモデルになることを目標に進めていきたい。
- ・ダムを教材にし、学校教育に取り入れていくことが大切である。
- ・水田と川を行き来する魚が全国的に見ても少なくなっている。ウェットランドでそのような環境を創出したので、この環境を活かした取り組みを行なっていきたい。
- ・ダムの周回道路を使って走る人のメッカにしたい。
- ・ダム周辺の道路はカーブが少なく、車が少ないなどのメリットが多く、週末に競輪選手が練習している。こういう特徴を活かすべきである。
- ・ダム上流をホタルの里にしようという動きがある。また、なかつくに公園付近には、たまりアユが多いため、他の地域の人を呼んでイベントをやるとういう企画もされている。
- ・介護を受ける人、介護現場で働く人、兼業農家で働く人たちの居住施設をつくるのが大切と考える。
- ・芸術、文化、歴史がすばらしい地域なので、是非テーマに加えてほしい。
- ・ここでの楽しい生活を大切にしたい。心豊かな趣味共有のネットワークづくりを、楽しみながら考えていくべき。
- ・家庭料理で十分であるが食文化を趣味共有のネットワークづくりと併せて考えていけば面白いものになると思う。
- ・田房川で相当数の遡上アユが生息している。アユを地域の特産品にしていければよいと考えている。漁協の参画も必要だろう。
- ・本日の委員会での話し合いの結果、分科会は概ね((4)のとおり)、分類されたものとする。

以上